



2022年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年10月6日

上場会社名 カネコ種苗株式会社 上場取引所 東
 コード番号 1376 URL <http://www.kanekoseeds.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金子 昌彦
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部門・コンプライアンス・IT推進担当 (氏名) 長谷 浩克 TEL 027-251-1619
 四半期報告書提出予定日 2021年10月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年5月期第1四半期の連結業績（2021年6月1日～2021年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年5月期第1四半期	14,439	△1.4	315	△7.3	355	△5.5	235	△9.6
2021年5月期第1四半期	14,639	8.5	340	23.7	375	17.7	260	19.6

(注) 包括利益 2022年5月期第1四半期 301百万円 (△21.5%) 2021年5月期第1四半期 383百万円 (97.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年5月期第1四半期	20.17	—
2021年5月期第1四半期	22.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年5月期第1四半期	42,296	21,744	51.4	1,863.92
2021年5月期	47,452	21,696	45.7	1,859.82

(参考) 自己資本 2022年5月期第1四半期 21,744百万円 2021年5月期 21,696百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年5月期	—	11.00	—	18.00	29.00
2022年5月期	—	—	—	—	—
2022年5月期（予想）	—	11.00	—	18.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年5月期の連結業績予想（2021年6月1日～2022年5月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	61,000	0.4	1,600	△3.7	1,700	△3.7	1,100	△23.4	94.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年5月期1Q	11,772,626株	2021年5月期	11,772,626株
② 期末自己株式数	2022年5月期1Q	106,548株	2021年5月期	106,548株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年5月期1Q	11,666,078株	2021年5月期1Q	11,666,567株

（注）期末自己株式数は、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式（2022年5月期1Q 72,400株、2021年5月期 72,400株）が含まれております。また、「株式給付信託（BBT）」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。（2022年5月期1Q 72,400株、2021年5月期1Q 72,400株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2021年6月1日～2021年8月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症関連で、ワクチン接種が促進されるなかでも感染が拡大し、引続き飲食・観光業を中心に需要が低迷、また、海外の感染拡大により部品調達に滞った製造業が減産を余儀なくされるなど、影響は多岐にわたり、かつ厳しい状況が継続しております。

国内農業の状況は、少子高齢化による食料消費の減少や農家の後継者不足等の従前からの課題に加え、九州地方の大雨に象徴されるように、天候面では降水量が多く日照不足傾向となり、農作物の作柄不良が懸念されるなど、農家経営が不安定化する要因が散見されます。

このような状況のなか当社グループの業績は、売上高144億39百万円で前年同期比1億99百万円（1.4%）の減収となり、利益面でも、営業利益3億15百万円で前年同期比25百万円（7.3%）減、経常利益3億55百万円で前年同期比20百万円（5.5%）減、親会社株主に帰属する四半期純利益2億35百万円で前年同期比24百万円（9.6%）減となりました。なお、当第1四半期連結会計期間より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用したことにより、売上高は32百万円減少、売上原価は77百万円減少し、営業利益・経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ44百万円増加しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

種苗事業

種苗事業においては、飼料作物種子の販売増があったものの、緑化工事用資材の需要減やキャベツ種子が国内販売・輸出ともに減少するなど苦戦し、売上高19億89百万円で前年同期比2.2%の減収となりました。利益面では、飼料作物種子の販売増による採算性の改善などにより、セグメント利益3億30百万円で前年同期比1.7%増となりました。

花き事業

花き事業においては、コロナ禍での外出自粛による家庭園芸・菜園分野への巣ごもり需要などから花苗の販売が好調に推移したものの、8月の長雨により園芸愛好家の戸外作業が妨げられたことで園芸農薬などの販売が低迷し、売上高17億95百万円で前年同期比0.5%の減収となりました。利益面でも、セグメント損失54百万円（前年同四半期のセグメント損失は48百万円）で損失は拡大いたしました。

なお、当事業は春に需要期を迎えることに伴い、第4四半期に売上高及び利益が集散的に計上される傾向があります。例年第3四半期まではセグメント損益はマイナスであります。通期では当該マイナスは解消されております。

農材事業

農材事業においては、8月の長雨により農薬の散布機会が喪失したことにより需要が低迷し、売上高72億83百万円で前年同期比1.0%の減収となりました。利益面でも、セグメント利益1億82百万円で前年同期比5.5%減となりました。

施設材事業

施設材事業においては、農業資材の値上がり前の駆け込み需要による販売増があったものの、天候不順による農作物の不作や一部野菜の青果安などに伴う農家の設備投資意欲の減退から、温室部材の販売や養液栽培プラントの完工売上高が減少し、売上高33億71百万円で前年同期比2.0%の減収となりました。利益面でも、セグメント利益70百万円で前年同期比10.9%減となりました。

(2) 財政状態に関する説明

（資産、負債及び純資産の状況）

当第1四半期連結会計期間末における「資産の部」の残高は、422億96百万円となり、前連結会計年度末と比較して51億55百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金の減少によるものであります。

また、「負債の部」の残高は、205億51百万円となり、前連結会計年度末と比較して52億3百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が増加したものの、支払手形及び買掛金が減少したことによるものであります。

なお、「資産の部」における受取手形及び売掛金の減少、また、「負債の部」における支払手形及び買掛金の減少は、当社グループの事業が主に第4四半期に繁忙期を迎えることに伴うものであり、每期ほぼ同様の状況となっております。

「純資産の部」の残高は、217億44百万円となり、前連結会計年度末と比較して微増となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年7月13日の「2021年5月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,819,502	4,005,210
受取手形及び売掛金	21,887,080	17,561,352
商品	8,150,033	7,519,687
その他	1,608,926	3,001,853
貸倒引当金	△21,979	△16,984
流動資産合計	37,443,562	32,071,121
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,009,290	4,003,890
その他(純額)	2,428,319	2,439,902
有形固定資産合計	6,437,610	6,443,792
無形固定資産	733,683	880,355
投資その他の資産		
その他	2,856,353	2,920,094
貸倒引当金	△19,177	△19,179
投資その他の資産合計	2,837,175	2,900,914
固定資産合計	10,008,469	10,225,062
資産合計	47,452,032	42,296,183
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,522,053	14,416,823
短期借入金	—	2,720,000
未払法人税等	250,761	127,570
その他	1,325,948	1,644,742
流動負債合計	24,098,762	18,909,136
固定負債		
退職給付に係る負債	1,330,235	1,326,813
役員株式給付引当金	39,368	35,404
その他	286,711	279,996
固定負債合計	1,656,315	1,642,214
負債合計	25,755,078	20,551,351
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,491,267	1,491,267
資本剰余金	1,765,224	1,765,224
利益剰余金	17,711,991	17,694,096
自己株式	△130,303	△130,303
株主資本合計	20,838,179	20,820,284
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	856,070	915,298
為替換算調整勘定	△24,937	△24,937
退職給付に係る調整累計額	27,435	33,957
その他の包括利益累計額合計	858,569	924,318
非支配株主持分	205	229
純資産合計	21,696,954	21,744,832
負債純資産合計	47,452,032	42,296,183

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)
売上高	14,639,230	14,439,974
売上原価	12,376,527	12,180,554
売上総利益	2,262,703	2,259,420
販売費及び一般管理費	1,921,819	1,943,558
営業利益	340,883	315,862
営業外収益		
受取配当金	20,592	22,058
受取家賃	16,614	18,427
その他	4,509	5,537
営業外収益合計	41,716	46,024
営業外費用		
支払利息	4,991	4,882
為替差損	996	1,532
その他	686	298
営業外費用合計	6,674	6,713
経常利益	375,925	355,172
特別損失		
固定資産処分損	88	1,525
減損損失	—	5,400
特別損失合計	88	6,925
税金等調整前四半期純利益	375,837	348,247
法人税等	115,649	112,974
四半期純利益	260,187	235,273
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	260,162	235,249

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2020年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)
四半期純利益	260,187	235,273
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	114,498	59,227
為替換算調整勘定	3,624	—
退職給付に係る調整額	4,944	6,521
その他の包括利益合計	123,067	65,749
四半期包括利益	383,254	301,022
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	383,227	300,997
非支配株主に係る四半期包括利益	27	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる主な変更点は次のとおりです。

1. 変動対価(売上リベート、仮価格による取引)について

商品の仕入販売におけるリベート又は仮価格による取引については、これまで金額確定時に売上高及び売上原価から控除する処理を行っていましたが、商品取引時に取引対価の変動部分の金額を見積もり、売上高及び売上原価から控除する処理に変更しております。

2. 返品される可能性のある商品販売取引に係る収益認識

返品する可能性のある商品販売取引について、これまで取引先から返品をされた商品を検品した時点で売上高から控除する処理を行っていましたが、予想される返品に関しては、変動対価に関する定めに従って販売時に収益を認識せず、取引先への返金が見込まれる金額について返金負債を計上する処理に変更しております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は32,981千円減少し、売上原価は77,658千円減少し、営業利益・経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ44,677千円増加しております。

また、当第1四半期連結会計期間末において、その他の流動資産が726,247千円増加、その他の流動負債が741,788千円増加、利益剰余金の当期首残高が41,851千円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年6月1日 至2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	種苗 事業	花き 事業	農材 事業	施設材 事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	2,034,184	1,803,756	7,360,117	3,441,171	14,639,230
セグメント間の内部売上高又は振替高	15,903	273	4	—	16,181
計	2,050,088	1,804,030	7,360,121	3,441,171	14,655,412
セグメント利益又は損失(△)	324,933	△48,462	193,628	79,433	549,533

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	549,533
全社費用(注)	△208,649
四半期連結損益計算書の営業利益	340,883

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2021年6月1日 至2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	種苗事業	花き事業	農材事業	施設材事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	1,989,316	1,795,313	7,283,786	3,371,557	14,439,974
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,319	147	—	—	13,466
計	2,002,635	1,795,461	7,283,786	3,371,557	14,453,441
セグメント利益又は損失(△)	330,298	△54,914	182,960	70,789	529,134

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	529,134
全社費用(注)	△213,272
四半期連結損益計算書の営業利益	315,862

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、一部の資産の使用を停止したため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において5,400千円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更していません。当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の各セグメントの売上高及び利益は以下のとおり増減が発生しております。

単位:千円

	売上高	セグメント利益
種苗事業	+9,510	+7,311
花き事業	+8,524	+4,033
農材事業	△51,016	+33,332
計	△32,981	+44,677